

みやぎ国際トライアスロン仙台ベイセヶ浜大会
岐阜国民体育大会 岩手県代表選考会

平成 24 年 7 月 1 日

エリート部の参加者 28 名

総 合	1:04:48 (23 位)
スイム (750m)	12:21 (23 位)
バイク (20 km)	32:07 (22 位、23 位通過)
ラ ン (5km)	20:20 (23 位)

天候：小雨 風速：2m/sec 北

水温：21℃ 気温 18.5℃

2010 年の千葉国体以来 2 年振りの国体開催に伴う代表選考会ということで、程良い緊張感で臨めた。2 週間前に日本選手権東北代表選考会で漏れただけに、国体代表だけは何としても獲得しようと強い気持ちで会場入りした。

朝の時点で、濃霧から小雨に変わりつつあった。セヶ浜大会のバイクコースは、小刻みにアップダウンが繰り返されるとともに、コーナーも割と多い 1 周 10 km を 2 周するテクニカルなコースである。

選考会はスプリント（普段の 51.5 km の半分の距離）で行われるため、一時の油断が許されない。即ち、テクニカルなバイクでアドバンテージを作ることが代表獲得へ繋がると思い、レースの構想を立てた。そこで重要となってくるのが、アップダウンやコーナー後の立ち上がり等、ギアチェンジが普段よりも多くなることから、レース直前のメンテナンスである。

スポーツクリーン、ライニガーで金属部分の汚れを綺麗に落とし、ルーベンスピードで変速機能部分を中心に表面をコーティング（ルーベンスピードはスプレー後、白くなるためどこをスプレーしたか判りやすい）。それにしても、毎度感じるのはライニガーとスポーツクリーンによる汚れの落ち具合が抜群であることである。汚れをしっかりと落とさなければ、どんなに立派なオイルを使用してもその効果は発揮されない。

汚れを綺麗に落としてからケアフリースで拭き取ってみると黒さは無く、完全に汚れが落ちたことが確認できる。その後、ルーベエクストリームをチェーン一個ずつ丁寧に塗布し、ペダルを前回り、後ろ回り共に 20 回転以上させて馴染ませた。最高の回転音である。その後、余分な油をケアフリースでふき取り、仕上げにダートプロテクターを吹き付けた。以上の工程は酒田大会と同様であるが、このメンテナンス方法、特にダートプロテクターの効果は実証済みで雨レースには打ってつけのケミカルである。

さて、レースはスイムを 23 位と日本のトッププロの選手からは遅れたものの、2 年前の同じレースよりも良い位置でバイクに移ることができた。

バイクでは久々のドラフティングレース。私以外の集団は4人～10人であった中、私の集団は2人。少人数であればあるほど、ドラフティングレースでは厳しいレース展開となる。しかし、「バイクでアドバンテージを作る」という構想を練った上でのホルメンケミカル・メンテナンスにより積極的なレースが展開できた。



アップダウン、コーナー立ち上がりの度にギアチェンジが必要となったが、一切ストレスを感じることなく切り替えができた。バイクは最小の2人で回し後続との差を開き、団体代表へ向け大きなアドバンテージを作れたが、前の集団を捉えられる程のバイク力を今後身につけていくのを課題としたい。

ランもアップダウンが続く5kmであったが、バイクで大きなアドバンテージを作ったことにより焦らず自分のベストを尽くしてゴールを迎えた。





これにより岐阜国民体育大会岩手県代表に内定した。

バイクパートを通じ、レース後に感じたことは、ホルメンケミカルはコース条件がアップダウンやコーナー等、きつければきついほど、悪天候であればあるほどその効果が如実に発揮されるということである。益々手放せないケミカルであると感じた。

これからの課題はエリートレースで勝負できる程にスイム・バイクのレベルアップを目指すとともに、岩手県代表として過去最高の成績を残せるようトレーニングに励んでいきたい。

最後に、本大会は平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、約 1 年 4 カ月で早期復活を果たした大会でありました。大会関係者、地元の住民の方々のご理解がなければ決して成し得ない大会でありました。関係された皆様方に感謝申し上げます。

以上

岩淵 努